

水俣にかかわり、水俣から学んだこと

秋津レークタウンクリニック 木村孝文

1. 水俣とのかかわり

① 1973年、熊本大学に入学して、水俣病の講演会を開催したり、合宿に参加したりしました。

1975年、水俣病の患者さんたちと直接、交流したいと思い、熊本地域医療研究会を仲間たちと作りました。

多くの住民が有機水銀に高濃度に汚染されながら水俣病患者はいないと言われた御所浦をフィールドワークの場所に選んで住民の家を訪問し、魚介類をどの程度摂取したか、水俣病症状はないかを聞き取りし、症状がある人には水俣病申請を勧めました。

② 毎年夏には3泊4日で地元の公民館に寝泊まりして、水俣病の自主検診を続けてきました。私たちが行った水俣病認定申請患者は500名を超えるました。

③ 認定申請をするだけでは患者救済につながらないと思い、御所の浦に患者団体を作るように働き掛けを続け、1977年水俣病認定申請患者協議会御所浦支部を結成しました。

④ 1995年、村山内閣による政治解決で私たちの御所浦活動は一段落して、御所浦支部も解散して患者協議会1本の活動になりました。

2. 秋津レークタウンクリニック設立

① 水俣病や、当時、地域医療研究会で取り組んでいた労働災害、職業病の診療や支援活動にあたる医療機関を作ろうと思い、原田正純先生や労働金庫、県内の労働組合などと一緒にになって、1990年秋津レークタウンに秋津レークタウンクリニックを開設しました。

② クリニックの活動は1) 地域医療 2) 水俣病支援 3) 労働災害・職業病の取り組み 4) 秋津レークタウンでの福祉のまちづくり活動の4つを取り組みの基本としました。

③ 1995年の政治解決及び2009年の水俣病特措法にあたっては多くの患者さんがクリニックに訪れ救済の支援を行いました。

3. 本日の講義内容

① 御所浦活動の具体的な展開について話をします。

② 秋津レークタウンクリニックの設立から今までの活動、特に地域活動と在宅医療の取り組みについて話します。

③ 最後に今、ガザやヨルダン川西岸でイスラエルが行っているパレスチナへのジェノサイドについて少し触れます。